



復刊第80号

題字 吉岡弥生

所感



副会長 柳瀬 路子

復刊第八十号の巻頭に、はからずも所感を述べさせていただけます。當りに当りまして、新任された副会長として、一面畏れ多くもあり、他面身に余る光栄と存じます。

筆を執るに当り、昭和三十三年五月に発刊されました復刊第一号より現在にいたるまでの会誌を通読させていただきました。通読しましたが、復刊第一号は編集により通巻百二十号に当るもので、したがって本号は通巻二百号の会誌ということになります。女医学会の歴史の重さを感じ、女医たる志を立てた先覚者のグループから我々へ、我々から次の世代へと目に見えぬ一筋の糸が連っている事を感じました。

明治三十五年、女医前田先生によって創立された日本女医学会は、大正二年日本女医学会雑誌第一号を発刊して以来、吉岡、佐藤、龍、三神と四

代の会長のもとに、発行部数三百から四千六百へと発展してきております。通読しますと、会誌の記事はそのまま本会の歴史でありまして、私達の現在おかれている立場が目に見える様に判り、興味深いものがありました。

会誌で拝見しましたが、初期にあつては、先覚者吉岡先生の薫陶をうけられた諸先輩が、女医の団結を訴え、牽引車たらんと陣頭に立つて旗を振っておられる姿が目に見える様です。戦後になって女医学会の存在が確固としたものになり、会員数も次第にふえてきました時、支部結成、国際女医学会への加入が行われ、その後より国際交流の記事が誌上を賑わしてきます。支部組織が確立された後、本会は何か事業をしたい、事業をするためには資金を捻出せねばならない、というところから、年金

事業がはじまり、荒川先生の基金提供により吉岡弥生賞が設けられました。やがて万博への診療奉仕その資金調達のために小出先生創案のルーペンダンの販売という様に発展していったと存じます。一九七五年には国際婦人年に協賛して「日本女医の実態調査」を行い、五千人に及ぶ一般女医の協力を得て報告書を上梓いたしました。そして一九七六年には国際女医学会を日本に誘致して、出席者千名に及ぶ、内容的にも稀れに見る盛会と各国の女医さんから大喝采をくださった程大成功を収めております。こうして展望してまいりますと、日本女医学会は今度休養期に入っているのだと思われてくるのです。世界第一位のGNPをあげて、かえって周囲からの強い風当りにあつて入っているように、日本が賢明に思考してやがて立ち上るであろうように、女医学会もやがては目的を見出して羽搏くことと思えます。

今回の役員改選によって副会長に選任されました私ども三人は、会長と月例の懇談会を持ち、隔意なき意見の交換を行い、女医学会の会務が円満に行われるよう、女医学会を魅力ある会にするよう、話し合っております。何か皆さんにメリットのある仕事をしたい、あれもしたい、これもしたい、と我々の間では沢山のプランが湧き上つてきておりますが、いずれ担当理事の合意を得、理事会で賛成が得られれば、会員諸姉にお

目次

所感.....	柳瀬 路子	1
第二十五回定時総会および観光のご案内.....		2
復刊八十号を祝い往時を偲ぶ.....		2
日本女医学会のあゆみ.....	佐藤イクヨ	2
観劇の夕べ.....	事業部	5
幸せは自らつくるもの(年金受給者から).....	川野辺 静	6
日本女医学会年金ご加入のおすすめ.....	福永ひろ子	6
国際女医学会第十七回国際会議参加のお誘い.....		7
Circular Letter No. 56 No. 57.....	山崎 倫子	8
学位取得者表.....	学術部	9
支部展望 九州地方.....		9
博多だより.....	加藤 笠子	9
群馬を訪ねて.....	広報部	10
忙中閑 著書「夕映えの子文」紹介.....	稲生 襄	11
絵画「あじさい」.....	木内 徹子	11
理事会議事録(七月).....	事業部	11
ルーペンダンのお知らせ.....		12
会員動静.....		12
編集後記.....		12

目通りする企画もあろうかと存じます。また会員諸姉におかれましても、どうぞ何をしろと理事会に話しかけて下さい。

実態調査でも判りましたように、戦後の新体制で誕生した男女共学の医学部は現在七十数校ありまして、大半の大学より百名を超える女医さんが巣立っております。もうその方達も卒業後二十年三十年を経たおられますので、ご自分の生活も落ち着き、ご自分のことより遠くへと観点が広がってきていて、社会における

女医という、客観的な見方をなさっていることと思います。現在でも勤務医の場合、仲々男女平等といえない場合があるようですが、十年後には医師の世界にも就職難がくるなどといわれております。昨今、そうなる時こそ女医の団結の必要性の大なるものがあると思えます。また現在でも、若い女医の当面している色々な問題を知って、女医学会が団体の力で相互扶助の実をあげるべきではないでしょうか。その意味で若い方に理事

たいと思います。

天の半分を支える婦権の喧伝され
ております現在、一般婦人の側から
も、専門的知識を持ち、科学的に物
を見、かつ各階層の人々の生活の機
微に通じている我々のアドバイスが
各方面に必要なのではないでしょう
か。我々の出来る事、しなければな
らない事は沢山あると思われませう。
仕事を通じてお互いにガツチリ手を
握り、お互いに理解し合って良い仕
事をしたいものです。

私事に涉って恐縮ですが、私は昨
年十二月初旬、十日間の予定で遊び
に行った西独で主人が急性腎不全に
倒れ、意識を失った主人を抱えて二
カ月半、冬の外地で療養するという
辛酸をなめてきました。その時つく
づく感じました事は、人間一人では
何も出来ない、人に助けられて初め
て物事は円滑に運ぶのだという事得
ました。女医は一人一人誠心立派

な人です。然し何か世に訴える時、
仕事をしようという時、一人で出来
る力は微々たるもので、やっぱり団
結が如何に有利であるかを痛切に感
じました。各自が意見を言い合う事
は大切です。色々な意見が出るのは
良い。しかし力を分散する事は不利
です。外から見た時我々は女医とい
う一つの範疇に入るのであります。充
分討議して決めた事を皆で協力して
やり遂げましょう。その共同の仕事
をする間に湧いてくる連帯感、信頼
そこに生れてくる人間的な温かさ、
美しさを想うとき、女医の先覚者達
の夢見た理想に連なる一筋の糸を私
は感じます。

吉岡先生に始まるこの団結の願
いと力を会員諸姉のご協力のもとに、
一層確固たるものとし、諸姉のご希
望にそうように会務を施行するよう
会長を補佐してまいりたいと存じま
す。(54・9・10)

昭和五十五年定時総会および観光の案内

とき 昭和五十五年五月二十四日
(出)二十五日(日)

ところ 群馬県伊香保町

費用 総会費 三、〇〇〇円
宿泊費 一、二、〇〇〇円
懇親会費 一〇、〇〇〇円
観光 Aコース 八、〇〇〇円(予定)
Bコース 六、〇〇〇円(予定)

講演 総合画像診断の体系他
—腹部疾患を中心に—

群馬大学助教授 平敷淳子

五月二十五日観光

Aコース 桐生織物ときのこを訪ねて

Bコース 榛名をめぐって高崎少林山だ
るま寺にて普茶料理

参加希望者は、同封のがきにて、
十二月末日まで群馬支部へ

復刊八十号を祝い往時を偲ぶ

日本女医会のあゆみ

明治三十五年〜昭和三十七年

佐藤イクヨ

その(一) 明治・大正期

戦後十三年を経て昭和三十三年復
刊第一号(通巻百二十号)が新聞型式
となり復刊された。編集人は福田幹
女史。爾来本会機関紙として活躍し
会の変遷・隆盛の模様を伝えつつ、
ここに昭和五十四年十月、ついに復
刊八十号に達した事はご同慶に堪え
ないところである。

今回三神会長の示唆により、日本
女医会のあゆみを、日本女医史・女
医界・女子医学研究・日本女医会誌
その他を探し、古きをたずねて見た
ので小文を誌す。

日本女医会の創立

前田園子・吉岡弥生女史らいわゆ
る初代女医諸氏の主唱によって、明
治三十五年(一九〇二)四月、会員僅
かに二十名余り(当時は医術開業試
験に合格し免許受得者と外国医学校
卒業者)で発足した。吉岡弥生先生
の東京女医学校は明治三十三年(一
九〇〇)創立で、まだ卒業生が出て
いない時代である。
会長は大先輩の前田園子女史(長
い間日本女医大校医)、年間二、三回

女医会を催して親睦と会の発展をは
かる。井上友子(女子学習院校医)・
定方亀代(聖路加病院小児科)両女史
は米国医科大学出身で有数の働き手、
涉外関係の折衝を担当、杉田鶴子(杉
田玄白の後)・多川澄子の両女史が熱
心に実務に当たられた。事務所は初め
は前田会長宅、次いで永らく多川氏
宅。

明治三十七年(一九〇四)

私立「日本医学校」神田淡路町に開
校、女子学生二十名を数う(四月)

明治三十九年(一九〇六)

日露戦争後、東京女医学校入学志
望者激増し校舎・寄宿舎増築(四月)

明治四十一年(一九〇八)

東京女医学校第一回卒業式(六月)。
創立九年目にして卒業生は竹内(井
出茂代)ただ一人。(当時は文部省の
医術開業試験合格をもって卒業とし
た)これにより突破口は開かれ続々
と卒業生を出し、女医学校の真価を
發揮した。



初期の東京女子医学専門学校

「日本女医会雑誌」創刊

大正二年(一九一三)六月二十五日
地久節の佳き日を卜して発行。発
行人杉田鶴子・編集人多川(池内)澄
子。菊判四十四頁。発刊の辞、本邦
女医の嚆矢、学術欄では論文二編、
外国抄録、国内抄録、会報欄、会員
名簿など、目次を写真版で、日本女
医史二〇二頁に見る。当時会員二百
名。雑誌の体裁は大正十四年六月第

二十四号までつづく。
女医第一号の荻野吟子脳溢血で死去(六十三歳・六月)

日本女医学会第一回総会

大正三年(一九一四)四月
上野精養軒にて開催、富士川游博士の女医史に関する講演あり。

万国女医学会結成

大正八年(一九一九)九月
ニューヨークにて各国女医参集、万国女医学会議開催、日本より井上友子出席、日本女医学会として入会した。会費年十ドル。(井上・吉岡はすでに昭和五年一月個人の資格で入会済)

大正九年(一九二〇)

日本女医学会総会(四月)、丸の内中央亭にて開催。会員六〇〇名となり、役員選出。
会長 吉岡弥生
評議員 前田園子、杉田鶴子、竹内茂代、蛭田満、長塩繁子、水谷志津勢、井上友子、大八木幸子、多川澄子、篠田せい、吉田賢子、久垣静枝、下山松枝、秋月宇磨、

東京女子医専、文部省指定となる。卒業即医師たるの資格を得(三月)。同校創立二十周年。予科新設。指定後最初の卒業生九十八名(十一月)。第一次世界大戦後窮乏のドイツ国民に、日本女医学会発起して募金六〇〇円を大使ゾルフに託す(八月)。

関東大震災

大正十二年九月一日(一九二二)東京および神奈川関東一円に大震災、被害甚大。女医も死者五名、罹災者多数。関西女医学会より義捐金一六七五円、その他より一三二六円を罹災会員に贈る(九月)。

十一月、米国より大震災罹災者救護のため、女医ヒューストン、看護婦オールマン来朝。

大正十三年(一九二四)

関東大震災罹災者救護のため送られた八〇〇〇ドルを基金とし、さきに米国の米国救護班寄贈の多量の衛生材料をもって、救護施設「深川会館」を建設、委員に井上友子、前田園子、吉岡弥生あたる(五月)。

大正十四年(一九二五)

財団法人 帝国女子医学専門学校創立(四月)。所在地東京府大森町・創立者 額田豊、校長 額田晋。

大正十五年(一九二六)

東京女子医専同窓会なる至誠会は社団法人となる(五月)。

その二

昭和二年(一九二七)

日本女医学会は普選達成デーに各婦人団体と共に参加、街頭にピラを撒く。
女医第二号の高橋瑞子死去、享年七十六歳(二月)。遺言により東京女子医専にて解剖、原型のまま骨格標本として、解剖学研究所の資料とし、同時にこの偉大なる先覚者の精神を伝えることとした。

昭和三年(一九二八)
万国女医学会副会長ラフ・ジョイ女史来朝歓迎を兼ね、第一回汎太平洋婦人会議(ホルル)に出席の吉岡弥生会長送別会を神田如水会館に開く(五月)。

大阪女子高等医学専門学校設立(六月)校長 和辻春次。

昭和四年(一九二九)

社団法人至誠会の事業として、都下千歳村(現世田谷区祖師谷)に至誠会第二病院(軽費診療主に結核)を建設、十一月開院、院長吉岡弥生。

昭和五年(一九三〇)

帝国女子医専、文部省指定となる(二月)。同校同窓会「鶴風会」結成。
日本女医学会第六回総会を兼ね、第二回汎太平洋会議に出席の定方亀代送別会と同時に、帝国女子医専第一回卒業生並びに東京女子医専卒業の

新入会員歓迎会を行なう。副会長に福井繁子就任、評議員東京二十五名、大阪十六名、京都五名、神戸六名と決る(五月)。
東京女子医専の夏期無料診療。上級学生を主体に医局員参加し、三河島尾久にて二五〇〇名を診療。以後昭和十九年まで都下各地にてこれを行(八月)。

昭和六年(一九三一)

女医最初の医学博士誕生
東京女子医専出身の西村庚子(東大耳鼻科)東大教授会に論文「邦人聴器就中骨内耳の位置形状について」通過し、わが国女医の医学博士第一号となる。

昭和七年(一九三二)

吉岡弥生先生の還暦を祝し、門下生相寄り銅像を建つ。(戦時供出、戦後復元)。
日本女医学会創立三十年記念春季例会に兼ね、福井繁子学位受領祝、戸田邦帰国歓迎会を日本医師会館にて開催。

昭和九年(一九三四)

四月、東京女医学会第一回総会を東京女子医専臨床講堂落成の講堂開きとして盛大に挙行。
万国女医学会第三回大会ストックホルムに開催、日本女医学会よりドイツ留学中の養内照子出席(八月)。

関西に大風水害あり、女医学会本部より慰問金三〇〇円を福井副会長宛送る(九月)。

昭和十年(一九三五)
米国女医学会雑誌「日本特集号」を企画、要請に応じ「日本女医学会の沿革」著明なる女医ことに新進の人名「医学上興味ある女医の論文」を送る(十一月)。

昭和十一年(一九三六)
公娼廃止の機運たかまり各婦人団体代表は内務省、警視庁にその即時実行を促す。女医学会より竹内茂代他数名参加す(二月)。
吉岡弥生NHKラジオより講演「日本の女医」を放送。

日本女医公許五十周年並びにその資料展覧会を上野精養軒に開催。
石黒忠恵子爵に頌徳表を、吉岡弥生に感謝状を贈る。荻野吟子の遺族出席慰霊祭を行う。記念事業として、会員募金一、六〇〇円を得、村山全生院、長島愛生園、鹿児島敬愛園に癩者住宅一棟宛を寄付する事に決定(五月)。

「結核予防婦人委員会」結成、委員長吉岡弥生、副委員長竹内茂代(十



最初の卒業生竹内茂代先生を囲んで

月。

昭和十二年(一九二七)

大阪女子高等医専同窓会の加多乃
会機関誌「おとづれ」発刊(三月)。
日華事変による国民精神総動員の

一環として「教育審議会」設置、委員
六十五名中唯一の女性委員吉岡弥生
任命さる(七月)。
長島愛生園医官小川正子随筆集
「小島の春」ベスト・セラーズとなる
(八月)。

昭和十四年(一九三九)

吉岡弥生国民精神総動員中央連盟
理事に就任。厚生省より欧米各国に
おける母性および児童保護調査を嘱
託さる(三月)。吉岡は至誠病院長並
びに診療実務を引退、後事を吉岡正
明・房子夫妻に委譲(四月)。文部・
厚生両省委嘱により米國經由ドイツ
に渡る(五月)。ドイツ視察中戦乱勃
発し、やむなく帰朝(十月)。

昭和十五年(一九四〇)

東京女子医専出身松村鉄子、蓮井
敏子、大西俊子はドイツナチス党婦
人団の招請に応じ諸施設見学のため
一カ年の予定で渡独(六月)。戦乱勃
発し、翌年六月帰国した。

紀元二千六百年記念事業として、
日本女医学会館建設資金募集を吉岡会
長の名において発表す(九月)。

吉岡弥生教育功労者として勲五等
瑞宝章を受く(十一月紀元二千六百
年奉祝日)。

昭和十六年(一九四一)

女医公許に尽力された石黒忠恵子
爵逝去(四月)。

十二月八日米英に対して宣戦の詔
勅下り、大東亜戦争に突入。

昭和十七年(一九四二)

婦人団体大同団結成り「大日本婦
人会」となる。吉岡弥生顧問に就任
(二月)。

昭和十八年(一九四三)

名古屋市立女子高等医学専門学校
五年制認可(二月)。

満州国巡回医療団派遣(八月)。
東京女子医専にて、満州国開拓民
の医療慰問、乳幼児・母性保護並び
に衛生状態調査などを行い、同時に
満州国の現状に対する認識を深め、
同国女医の発展を助長させたい趣旨
のもとに計画していたが、昭和十八
年八月、大東亜省の後援を得て、佐
藤イクヨ教授を団長とする女医五名、
学生三十三名の一行を派遣した。

戦局苛烈となるに伴い、各方面の
整備統合強化され、出版界も未曾有
の整理が行なわれた。

東京女医学会誌(東京女子医専
発行)は、医学薬学部門三十八種特
殊雑誌中、女子の医学雑誌としてた
だ一誌、存続し得ることとなり、学
会名を「日本女子医学研究会」、雑誌
名を「女子医学研究」と改称した(昭
和十八年五月)。

至誠会発行の「女医界」も女子医学
研究に統合されたというよりは、四

十年の歴史を閉じて発展的解消の形
となり、バトンには「女子医学研究」が
受けつぎ、その雑報欄に至誠会記事
が掲載され、わずかながら命脈を保
った。

昭和十九年(一九四四)

「日本女医学会雑誌」は空襲激化に伴
い第一一九号を以て発行不能となる
(九月)。

昭和二十年(一九四五)

米機の大空襲三月より激烈となる。
帝国女子医専は同校の本館以外
の全施設は空襲により焼失(四月)。
同校は信濃学園にて疎開授業。
東京女子医専は校舍全焼、病院は
半分残る。至誠会本部・同第一・第
三病院全焼(四月)。至誠会第二病院
と関西病院のみ戦災を免る。東京女
子医専下級生は山梨に疎開(七月)
十二月)。

米軍は八月六日広島・九日長崎に
原爆投下。

八月八日ソ連参戦、満州を衝く。
八月十五日聖勅下り、無条件降伏
となり第二次世界大戦終る。

九月二日ミズリー艦上にて、日本
の降伏調印が行われた。

その(三)
戦後昭和二十一年
三十七年

昭和二十一年(一九四六)

婦人参政権による最初の総選挙

婦人候補者三十九名当選。日本女
医学会より竹内茂代(東京)、富田房子
(京都)、中山玉子(神戸)、衆議院議
員に当選す(四月)。

吉岡弥生・厚生省顧問となる(七
月)。

昭和二十二年(一九四七)

吉岡弥生(東京女子医専校長)四月
教職追放、大政翼賛会に参画したを
もって公職追放となる。竹内茂代も
公職追放となった。

東京女子医専は医科大学認可(旧
制)(六月)七月子科第一回入学。
至誠会の「女医界」復刊一号(九月
一日発行)通号三四五号。従来通り
の新聞型式で十頁。巻頭言吉岡弥生
「復刊にあたりて—その後の報告—」
帝国女子医・薬・理専ともに「東
邦」と改称(二月)。東邦医科大学予
科認可(六月)。

昭和二十三年(一九四八)

大阪女子高等医専「大阪女子医科
大学」となる(四月)。

昭和二十四年(一九四九)

名古屋、岐阜、福島、秋田、京都、
札幌、京城等各地の女子医専は、秋
田を除き、いずれも学制改革(専門
学校廃止)により、前後して医科大
学となる。

昭和二十六年(一九五一)

公職追放解除 吉岡弥生・竹内茂
代(八月)。吉岡の教職追放は少し遅

れて十一月晴れて解除となる。

東京女子医専最後の第四十五回卒
業生一九〇名を送り廃校となる。
帝国女子医専第二十二回卒業生を
最後に廃校と決す。「東邦大学新聞」
創刊(三月)。

昭和二十七年(一九五二)

新制東京女子医科大学発足、学頭
吉岡弥生の意思により男女共学を排
し、本邦唯一の女子医大となる(二
月)。同校は東京女医学校以来東京女
子医大に至る創立五十年記念祝賀会
挙行、学頭吉岡弥生、学長久慈直太
郎(五月)。

昭和二十九年(一九五四)

吉岡弥生、軽井沢別邸にて卒倒(八
月)。
大阪女子医大「関西医科大学」と改
称、新制男女共学となる。

昭和三十年(一九五五)

病床の吉岡弥生に勲四等宝冠章を
贈らる(四月)。
日本女医学会戦後再建第一回総会を
日比谷松本楼に開会(五月)。
帝国女子医専以来東邦大学に至る
三十周年記念式典行わる(十月)。

昭和三十一年(一九五六)

国際(万国)女医学会アジア会議、マ
ニラにて開催、日本代表として鶴風
会より小林潔子、宮坂登志子出席(一
月)。
国際女医学会前会長リード女史来日、

日本女医学会主催歓迎懇親会を東京会館にて開催(三月)。
国際女医会理事會スイスに開催、加多乃会大原一枝出席(九月)、日本女医学会の国際的名称決定、Medical Association of Japanese Woman (十二月)。

昭和三十三年(一九五七)
日本女医学会第二回總會(日比谷松本楼)において、「国際女医学会加入」、「日本女医史編纂」の件決定(十月)。
本年中に全国ほとんど支部結成をみて本会の基盤が確立した。

昭和三十三年(一九五八)
東京女子医科大学大学院設置認可(三月)。
日本女医学会雑誌、「日本女医学会誌」と改称、復刊第一号通号百二十号を出す(五月)。
関西医科大学三十周年記念式挙行(六月)。

国際女医会(七月ロンドン開催)出席の日本代表として龍智恵子(鶴風会)安田信子・新堀千代子(至誠会)決定。

第八回汎太平洋東南アジア婦人會議、東京国際キリスト教大学にて開催、各国より一七〇名参加、日本側二十五名中、女医会代表山本杉・小野春生(至誠会)、牧野夫佐子(加多乃会)(八月)。

昭和三十四年(一九五九)
第十五回日本医学會總會(東京)にご臨席決定の天皇とともに皇后にもご出席願う旨、吉岡会長より宮内庁に申入れ許可さる(四月)。
山本杉、自民党公認により参院選に立候補し当選す(五月)。

吉岡弥生会長永眠す(五月二十二日)享年八十八歳。葬儀は東京女子医科大学・至誠会合同葬により青山斎場において行なわれ、祭祠料下賜正五位勲二等瑞宝章を贈らる(五月)。

吉岡弥生先生筆



徳を樹て以つて名を為すに至るは無私に有り

静岡 竹内静香先生蔵
昭和十一年

日本女医会、故吉岡会長の後任として会長に副会長佐藤やい就任(十一月)。

昭和三十五年(一九六〇)
井上友子、東京都下高井戸浴風園にて永眠、享年九十歳(四月)。
国際女医会ドイツ(バーデン・バーデン)に開催。戦後正式加盟国として日本より十九名出席す(九月)。
団長・川那部喜美子(加多乃会)、連絡書記・小野春生(至誠会)。

昭和三十六年(一九六一)
川那部喜美子、関西医科大学加多乃会々長に就任(三月)。同大学大学院設置認可(三月)。
日本女医会副会長福井繁子(関西女医会長)永眠す。享年八十七歳(七月)。
島津草子医博(至誠会)、その著成尋阿闍梨母集・参天台五台山記の研究により文学博士となる(十二月)。

昭和三十七年(一九六二)
「日本女医史」刊行成る(九月)。
日本女医史編纂のことは、すでに昭和三十三年、戦後第二回日本女医會總會において決定した。

多川澄子女史はこの企画のそももの発案者で、資料を集め日本医事新報に連載もされ、この仕事は杉田鶴子女史と二人で完成しようと努力されていたが、相次いで故人となられた。大切な資料は幸いにも戦時疎開されて残り、それを編集委員の一

人福田幹(至誠会)氏がそっくり引きつぎ、さらに日夜蒐集につとめ、日本女医会理事會の度毎に訴えつづけ遂に秋山龍三氏に執筆を依頼し、三年後の昭和三十七年九月発刊、発売されるにいたった。A版三一九頁。

後記

日本女医会創立明治三十五年(一九〇二)より大正時代を経て、昭和三十三年日本女医会誌復刊までの梗概を拾ってみる積りであったが、三十七年(一九六二)「日本女医史」発刊まではと延ばして終りとす。

思えば草創時代の会員二十名から三女子医専時代―大学昇格―一般医大も共学となり、日本女医会の支部組織も確立し、現在会員四千名近くを数え、発展の一途を辿ったが、昭和四十五年(一九七〇)一躍、大阪における万国博覧会で医療奉仕の大活躍で日本女医会の底力を示し、昭和五十一年(一九七六)八月、日本女医會が国際女医会第十五回国際會議を東京で開催、世界に向って一時に花ひらき、非常な盛会・大成功は、われわれの記憶に新しいが、立派な報告書を出版された事は後世に遺る大記録で、日本女医会の不滅の歴史を飾るものである。

日本女医会の弥栄と会員皆様のご活躍、ご多幸を祈って拙い筆を擱く。
(54・9・27)

観劇の夕べ

日時 十二月八日(土)
午後四時半 開場
五時 開演
場所 帝國劇場
A席 四、三〇〇円

大石内蔵助の生い立ち

中村梅之助
草苗光子
三浦布美子
三木のり平
中村翫右衛門他

この度事業部で、今年度納めとしての観劇会の夕べを企画しました。平常はお互いに忙しくお近くの先生方ともお目にかかる折がないものです。どうぞこの観劇が会員諸先生方の交流の場になれば非常に有難いと存じます。またご家族、従業員の方々の年末の忘年会に、または早いクリスマスとしての慰労の集りにご活用いただきたくご案内致します。

内容は大石内蔵助のひる行灯ぶりを中村梅之助を中心に三本のり平そのほかベテランの女優により展開される演技が見ごたえのあるものになっています。ただ今前人氣上昇中です。何卒ふるってご参加願います。

なお切符のお申し込みは
日本女医会事務局まで
お申し込み順にお席を埋めております。
事業部

幸せは自らつくるもの

(年金受給者から)

静岡 川野辺 静

「備えあれば憂い無し」古い言葉であり、教えであります。教えは教えとして承知しながら、その教えを守れないのが人の世の常とも言えます。

月日のたつのは早いものアツと言う間に一年はすぎ十年はたち、年齢も五十代から六十、七十代へとその早さに驚くばかりです。

かつて人生五十年と言われた寿命も今日では男女共七十年を越し、やがて人生八十年時代を迎えるのも近い事でしょう。

これを使う時、老人対策は国でと国にばかり責任を荷すのでなく自分の老後は自分で設計する事こそ現代人の心構えとも言えます。

そこに様々の年金制度があり日本女医学会に日本女医学会年金制があるのが皆様ご承知の通りです。

私も知らぬ間にその年金受給年齢人となりました。

私の場合昭和五年医師となり母校での医局生活五年、そして三十年間の開業医生活、母校厚生補導部長七年参議院議員六年を過ぎ現在にいたりました。

したがって恩給その他の特典的収入は一銭もないのであります。

しかも僅な開業医時代の財産は選挙で完全に消費してしまつたのであります。

こうした時に加入していた年金が受給者となつた今日の私に思いもよらぬ収入、嬉しい楽しい収入となつているので。

一定時に一定金額が労せず誰にもどこにも気兼ねなく入金するので誠に快的と言う他ありません。

現在私は三ヵ月毎に日本女医学会金七万六千円を受けています。それ位のお金が現代社会でどれ程の役に立つかと笑う考え方もありません。

金額の多少ではありません。年金を受取る度にその年金に寄せられる楽しいプランを立て様々の希望等は受給者のみの味う幸と言えましよう。そして私もその楽しみその幸を存分にかみしめている一人です。

しかもこの幸は自分の意志で確実にちかちかとするのです。

幸せは自ら生み育てるものと思ひます。せつかくある日本女医学会年金制にご加入を会員各位皆様におすめしてやまない私です。

(54・9・14)

日本女医学会年金

ご加入のおすすめ

年金委員 福永 ひろ子

近年、日本も欧米なみに、老令年金について、真剣に取りあげておりますが、日本女医学会は、時代を先取りして、十一年前から日本女医学会年金制度を実施しております。他の年金制度に比べて、ご加入者の掛金が、複利運用によって有利に、ふやされますので、低い掛金で多額の給付を受けながら、その上、信託運用により、会の資金確保も出来る仕組みとなつていゝ画期的な、年金制度でございます。

この制度には勿論老令年金の他に、遺族年金・中途脱退一時金・一律弔慰金等の給付もついております。

三十歳から七十九歳までの会員であればどなたでも加入でき、一口月額三〇〇〇円(何口でも可)送金方法は、お取引銀行からの自動引落し、または、郵便振替送金も出来ます。

例1 四十歳で一口加入の場合
老令年金額、毎月の受取金額
二五、五六〇円
十年間の受取総額
三、〇六七、二〇〇円
掛金支払総額

例2 一口加入、満十五年で中途脱退の場合
受取り金額
八七二、四六〇円
自己負担金額
五四〇、〇〇〇円

ご加入手続は、事務局までご一報下さい。加入申込書をお送りしますので所要事項を書き込みそのまま投函して下さい。それではOK!
具体例を述べてご説明いたしましたとおりですので種々検討の上日本女医学会年金制度にご加入、ご増額下さいませ様おすめ致します。

なお詳細は、日本女医学会本部事務局にお問い合わせ下さい。

加入時令	老令年金給付時期
30才-55才	65才
56才-65才	70才
66才-79才	80才

加入年齢	年金月額	加入年齢	年金月額
30才	57,060円	43才	19,740円
31	52,800	44	18,060
32	48,780	45	16,440
33	45,120	46	15,000
34	41,640	47	13,620
35	38,460	48	12,300
36	35,520	49	11,100
37	32,760	50	10,020
38	30,180	51	8,940
39	27,780	52	7,980
40	25,560	53	7,080
41	23,460	54	6,240
42	21,540	55	5,460

加入年齢	年金月額
56才	8,940円
57	7,980
58	7,080
59	6,240
60	5,460
61	4,740
62	4,020
63	3,360
64	2,760
65	2,220

加入年齢	年金月額
66才	8,940円
67	7,980
68	7,080
69	6,240
70	5,460
71	4,740
72	4,020
73	3,360
74	2,760
75	2,220
76	1,740
77	1,260
78	780
79	390

加入年齢	年金月額
30才	57,060円
31	52,800
32	48,780
33	45,120
34	41,640
35	38,460
36	35,520
37	32,760
38	30,180
39	27,780
40	25,560
41	23,460
42	21,540

【表の見方】
70才で3口加入された方は、5,460×3=16,380円が年金月額となり、80才より10年間給付されます。

【表の見方】
40才で2口加入された方は、年金月額は、25,560×2=51,120円となり65才より10年間給付されます。

【表の見方】
56才で2口加入された方は、8,940×2=17,880円が年金月額となり、70才より10年間給付されます。

国際女医学会第十七回国際会議参加のお誘い

すでにご承知の通り国際女医学会第十七回国際会議は、明年八月十七日から二十三日まで英国のパーミンガムで開かれます。

理事会において今回の国際会議参加旅行には、日本交通公社と阪急交通社の二社を指定し、いくつかのコースを作成するように依頼しました。

参加のお申し込み、登録はすべて日本女医学会本部で致しますので、ご案内をご検討の上、旅行社名、コース別を明記の上、はがきにて日本女医学会事務局に十二月三十日までにお申し込み下さい。(前回は旅行者にまかせましたが、国際本部からの指示により本部で一括することになりました)

なお、日本語の同時通訳は交渉中です。皆様お誘いあわせて多数ご参加下さいますようお願いしております。

日本交通公社

国内・海外団体旅行日本橋支店
担当者 外川宇八(03)二七四一六八一七

Aコース

旅程 東京(機中泊)→パリ(二泊)→ロンドン→パーミンガム(七泊)→ロンドン→ボストン(二泊)→ウイリアムズバーグ(二泊)→ニューヨーク(二泊)→(機中泊)東京

期間 昭和五十五年八月十四日～三十日 十七日間
経費 七十九万円

Bコース

旅程 東京(機中泊)→ロンドン→パーミンガム(七泊)→ロンドン→チューリッヒ→グリンデルワールド(二泊)→チューリッヒ・ミュンヘン→ローテンプ

ルク(二泊)→ハイデルベルグ→フランクフルト(二泊)→(機中泊)東京

期間 昭和五十五年八月十六日～二十九日 十四日間
経費 七十一万円

Cコース

旅程 東京(機中泊)→フランクフルト→マインツ(二泊)→コブレンツ→トリアー(二泊)→ルクセンブルグ(一泊)→ブルージュ(二泊)→ブラッセル→エジンバラ(二泊)→インヴァネス(一泊)→ロッホローモント(二泊)→ウインターミア(一泊)→ダブリン(二泊)→パーミンガム(七泊)→ロンドン(機中泊)→東京

期間 昭和五十五年八月四日～二十五日 二十二日間
経費 九十六万円

阪急交通社

内幸町営業所
担当者 中村松男(03)五〇一―五九二三

Aコース

旅程 大阪→東京(機中泊)→ロンドン→パリ(二泊)→ミュンヘン→インスブルック(二泊)→ザルツブルグ(二泊)→ロンドン→パーミンガム(七泊)→ロンドン→(機中泊)東京→大阪

期間 昭和五十五年八月十一日～二十五日 十五日間
経費 七十二万円

Bコース

旅程 大阪→東京(機中泊)→ロンドン→ウィーン(二泊)

→プラハ(二泊)→アタベスト(二泊)→ロンドン→パーミンガム(七泊)→グラスコーフオートウイリアム(一泊)→エディンバラ(一泊)→ロンドン→(機中泊)東京→大阪

期間 昭和五十五年八月十一日～二十七日 十七日間
経費 七十七万円

Cコース(北欧とフィヨルド)

旅程 大阪→東京(機中泊)→ロンドン→コペンハーゲン(二泊)→オスロ(二泊)→ソクネフィヨルド→ラルダル(二泊)→ベルゲン(二泊)→ロンドン→パーミンガム(七泊)→ロンドン→(機中泊)東京→大阪

期間 昭和五十五年八月十一日～二十五日 十五日間
経費 七十四万円

各コースとも経費に含まれるものは次のとおりです

- (1) 航空運賃 全行程エコノミークラス航空運賃
- (2) バス運賃 各地における空港とホテル間の特別バス運賃および都市間の移動特別バス運賃
- (3) 観光バス料金 旅行日程に含まれている各地における特別バス料金、ガイド料金、入場料等
- (4) ホテル料金 各地における一級ホテルの二居室(原則として浴室付)にお二人ずつの宿泊料および税金、サービス料
- (5) 食事料金 毎日三食(朝・昼・夕)の食事料金。航空機上の食事も含みます。ただし、八月十七日～二十三日は朝食のみ
- (6) 手荷物運搬料金 スーツケース二個程度の手荷物の全行程の運搬料金(お一人につき重量制限は二十キログラム)
- (7) 空港税 各地における空港税

ただし超過手荷物料金、洗濯代、電話代、酒、果物類その他個人的性質の費用およびサービス料金等は経費の中には含まれておりません。なお、経費は、現行運賃、料金および二十五人～三十人以上の団体の場合を基準としております。会議登録費用は、含まれていません。

Circular Letter No.56

国際連絡書記 山崎 倫子(記)

一、一九八〇年第十七回国際会議について

一九八〇年国際会議の準備は着々進んでおり、近々第一報を送る手筈となつています。暫定的プログラム案、登録用紙及び諸料金については九月以降に送る予定です。

学術論文提出については前号にて連絡した通り、特別用紙に演者名、住所、演題を記入し、別に一五〇字の抄録を添え、連絡書記を介して八月末までに本部に送って下さい。

二、一九八二年第十八回国際会議について

一九八〇年の第十七回国際会議はイランに代って英国女医会が引受けることになり、一九八二年の会議をイランで開くことに予定を変更しましたが、テヘランで会議を開くことは全く不可能となりました。したがって一九八二年の開催地については未定です。国際会議開催国の招待を歓迎します。

最近メキシコから帰ったところですがすでにメキシコ女医会から一九八二年の国際会議開催の招待がきていることをお知らせします。しかし他の国からの招待も望ましいので、九月初旬ウインで行われる役員会

までにお申し出いただき、検討したいと思ひます。

一九八二年に会議を主催するには二年しか準備期間がなく大変なことはよく解りますが、本部も出来る限りの協力、援助をすることを約束します。なお、英国女医会もどうやって二年間に会議の準備をするか手本を示してくれるでしょう。

三、一九八〇年―一九八二年役員選挙について

悲しいのですがDr. Liessa Pirniaが次期会長の役を辞任されたことをお知らせします。Dr. Pirniaはイランから出国されましたが、その後の計画については不明です。不安定な現状とご家族の将来等考え併せMWIAの役員としての義務を果たすことが不可能であることは充分察せられます。Dr. Pirniaの前途の安定を心から祈ります。MWIAが彼女の苦しみを軽くしてあげることが出来ないことを非常に残念に思ひます。一年前、彼女は幸せそうに、張り切ってテヘランでの会議の計画をあれこれ話していたのに！信じられない程です。

バーミンガムで行われる一九八〇年―一九八二年役員選挙の役員候補につき推薦書を忘れずに送って下さい。

い。九月の役員会に提出されます。役員会では定款にしたがい次期会長の残務期間(一九七八年―一九八〇年)のDr. Pirniaの後任について検討されます。

四、一九八四年第十九回国際会議について

一九八四年に開催される第十九回国際会議の場所とテーマについてはバーミンガムで行われる総会で決定される。

したがって一九八四年国際会議開催の招待を歓迎し会議のテーマについてもご意見をお待ちします。

追記

次期国際副会長候補に佐野アヤ子先生を日本女医会から推薦致しました。

No.57

九月三、四、五の三日間にわたって役員会がウインで開催されました。

Dr. ChinatamyとDr. Stolzを除いた全役員出席。相談役Dr. Lloyd Green 財務委員長小野先生、募金委員長Dr. Redshaw 及び第十七回会議の組織委員長Miss Carrinも役員会に出席しました。

役員会での決定事項、その他重要事項について通知します。

一、第十七回国際会議

バーミンガムにおいて一九八〇

年八月十七日―二十三日

登録用紙(会議参加用、社交行事及び会議前後の小旅行等)とプログラムを十月末頃着の予定で送りま

す。登録費は約一〇〇ポンド(約五万円)全ての支払はポンドで行うこと。

英国女医会の交渉によって、メトロポールホテルが全ての会議参加者に対して会期中の六泊分については特別割引を了承、つまり、宿泊及び食事をパッケージ方式にすることに

よって宿泊料金については五十パーセント引にすることを取付けました。ただし会議前後の宿泊、すなわち八月十七日以前または二十三日以後は

割高の一般料金となります。主催女医会の努力により好条件が得られたので、全ての予約はロンドンの国際会議準備委員会を通して行

われなければなりません。(登録用紙に記入し連絡書記を通して申し込む)メトロポールホテルへは直接交渉をしないで下さい。

会期中の休みは今回木曜日としていくつが選択方式の遠足が計画されています。参加者のための社交行事や同伴者向けの特別プログラムもすでに計画されています。詳細と費用については送付する書類をごらん下さい。

会議参加者が持つていったお土産店がベルリンで非常に成功したので今回もバーミンガムで"Bring and bug stall"(持つて行って買うお店)を開くこととなります。今から何を

寄付しようか、それぞれの国の特徴のある小さな品物をお考え置き下さい。

二、役員選挙

A、次期会長

ベルリンで選出された一九七八―一九八〇年期の次期会長Dr. Liessa Pirniaはイラン国の事件により出国され、現状ではその任を果すことは出来ない、その役を辞任されました。先般各国女医会にこの残務期間の次期会長の推薦を依頼したところほとんどの女医会がDr. Joan Redshawを指名してきました。したがって役員会においてDr. J. Redshawを残務期間の次期会長に指名決定しました。Dr. J. Redshawはバーミンガムでの総会で自動的に会長に就任するということになります。

次に一九八〇―一九八二年期の新しい次期会長候補を推薦して貰わなければなりません。この事については貴団体が検討され、同封用紙をもって出来るだけ早く推薦指名をしていただきたい。なお推薦候補者については本人の同意が必要ですから注意して下さい。もし候補者名を挙げることができない場合は、どの国から次期会長を出したいかを国名で提出してもかまいません。

B、

一九八〇―一九八二年期の役員候補者名については省略する、何れバーミンガムでの総会で選出される訳です。

三、第十八回国際会議—一九八二年メキシコとフィリピンから招待があります。役員会後南アフリカから招待状が届きましたが考慮外となりました。

主催国が会議開催の準備期間を充分持つことが出来るよう役員会で次期開催地を決定しました。メキシコは一九八二年または、一九八四年の何れかとの招待に対しフィリピンは一九八二年を引受ける用意があるとの申し入れでした。したがって第十八回国際女医学会はフィリピンのマニラで開かれることに決定されました。会議のトピックは“Human Management in Medicine”(医学、医療における人間のあり方)あるいはさらに大きく“科学の中の人間のあり方”と考えてもよいでしょう。

四、第十九回国際女医学会議

一九八四年の国際会議の場所とテーマは来年のバーミンガムでの総会で決定されます。

現在メキシコと南アフリカから招待が届いていますが、他国からの招待も期待しています。テーマについてもご提案下さい。

五、新しい参加

ケニヤとスーダンに女医学会が設立されました。バーミンガムで正式加盟となります。セネガルのDr.F.Toureから個人会員としての参加の申し入れが届いています。

以上

昭和53年度全国医科大学学位取得者数及び日本女医会員学位取得者表(学術部)

昭和54年6月7日、63校に調査依頼し、53校より回答をいただきました。なお、会員外の71名に、入会勧誘状を発送し、現在までに5名の方が入会されました。

	学校数	取得者数	日本女医会員
国公立	30	45	0
私立	27	37	11
計	57名	82名	11名

(敬称略)

支部名	氏名	出身校	卒年	論文名
茨城	鯉淵多恵子	東京女子医大	昭和43年	迷路温度刺激検査における刺激の強さと反応の大きさに関する研究
足立	小宮山節子	"	" 19年	新生児肺の病理学的研究
大田	小林 玲子	"	" 43年	喉頭の浸潤癌周辺粘膜にみられる上皮内癌
江東	横須賀智子	"	" 46年	健常者および糖尿病患者におけるインスリン鼻粘膜投与に関する研究
新宿	白杵 祥江	"	" 50年	日本人男性における角膜環と冠疾患の関係について
"	黄 長華	"	" 43年	妊娠後期仰臥位低血圧症候群の発生機序に関する研究——特に循環動態面からの検討——
文京	稲田 信子	"	" 43年	各種中枢神経系疾患患児における皮膚紋理の分析研究
港	鈴木 千秋	"	" 45年	十二指腸潰瘍の内視鏡的病期分類に関する臨床的研究
静岡	坂口 潤子	"	" 47年	指先容積脈波の臨床的研究——高血圧重症度における心脈管力学的判定——
福岡	井手 信	"	" 45年	本邦における妊娠時の葉酸代謝に関する研究——臨床編——
宮崎	梶原 順子	"	" 23年	糖尿病性網膜症患者における球結膜細小血管の電顕所見

支部展望

九州地方

博多だより

福岡 加藤 竺子

「緑と人間味豊かな街づくり」をモットーに博多の名で親しまれている福岡市は今年市政発足九十周年を迎えました。いまや人口百万特別指定都市として福岡都市圏の中核的役割を果しながらその発展をつづけております。奴の国と呼ばれていた万葉の昔から貿易、文化交流の門戸として繁栄してきた街で昭和五十年新幹線の開通、板付空港の国際化、博多港からの外国貿易など国内外の交通の基点として活躍しています。福岡市はかつて黒田五十二万石の居城の福岡城跡、玄海国立公園に指定されている白砂青松の海岸線、七百余年前国難を救う一因ともなったといわれる元寇防塁跡、国宝金印出土の志賀島、菅公ゆかりの地筑紫路の太宰府等数多くの名所に恵まれており、情緒の街、芸どころ、食べものの街博多としても親しまれています。そろそろ秋の季節も深まり名物の「水たき」の味も一段と美味しくなりました。「博多に来るときやひとり来たが帰りは人形とふたりづれ」と歌の文句にもあるように博多人形もその趣を添えます。玄海の荒波にもまた鯛の生づくりの味は格別です。さて、支部の現況をご披露申し上げますと名簿上の会員数六十八名、

昭和五十三年医師登録の女医数五六八名に比しあまりにも少数の人数でございます。それと申しますのも、何ら支部としての活動も積極的な組織づくりもしていない実情で、会員それぞれが胸の中で女医会へのおもわくと理解のもとに個人レベルで全国女医会へ細々とつらなっていると言っているのが現状です。支部としてどうするか? 心ある方はそれなりに悩み積極的なご意見もお寄せ頂いております。医師会の女医部会の様な形にして女医さんの大半を加入させるようにと言う強硬論や、任意同好的なサロンのなものでいいと言う意見や、多くの異なった医学部の女子卒業生の交流の場とすべきという意見、どんなでも、どうせおつきあい費を送っているのだから……と言う無関心派、それぞれの立場や考え方で多様な意見が出ています。最近の女医会の経緯の中でそれなりに悩み考えてはいますが今だにすっきりした展望はありません。中央から遠いために雑音が入らず幸せな面もありまたおきざりになるような時代感覚のおくれも感じます。女医さんだから、女医さんこそ、女医さんだけに出来ると言うよい会に育てたいと言う夢は持ちつづけています。

群馬を訪ねて

広報部

九月十六日、広報部の新しい試みとして企画した訪問記事取材のため、私共は次期総会(五月二十四、二十五日)開催地である群馬の地を訪れた。そしてご多忙中の先生方の総会開催にご協力下さる四方山の話をお聞きしてきた。

お話しによれば昨日まで雨降りであったのが、からりと晴れ上り、赤城の澄んだ空、美味しい空気と水に恵まれ、ことに前橋市の各家庭の水道の水は湧水利用との事、お里帰りのお嬢様がお土産に水をもって帰られるとか、その味はまた格別でした。利根川の清流にかかる群馬大橋を渡り先生方のお集りになっているホテルへうかがった。

佐藤ち江先生、真中はるゑ先生、角田智恵子先生、狩野登志子先生、そして支部長岸直枝先生も日本ガールスカウトの会長としてご多忙の中をご出席頂き、諸先生方のご協力を厚くお礼申し上げます。

岸先生からは「群馬での総会は和やかな柔らかな総会にするからね」と自信たっぷりのお話をお話しをうかがった。また、「群馬には立派なホテルはいくつかあるが会場にした伊香保温泉の福一

旅館は貴重品を置き忘れても、紛失しない、安心して楽しめる誠意と信頼のある旅館なのよ。また「総会後の自由時間にはクラス会やグループ会を開いて貰える様な部屋もあるしね。お互いに好みの部屋へ行って寝てよし、喋るもよし、旅館一軒貸切るつもり」と今から楽しい総会の日が待遠しくさと思える様でした。

出席者二百人以上によって貸切る旅館の一夜はそのまま日本女医学会の社交場となる事でしょう。なおまた家族連れ大歓迎との事、どうぞお誘い合せの上二百人以上多数のご参加を希望しておられました。

群馬県衛生環境部予防課長の佐藤ち江先生は、「旅館はもちろん、観光地区の衛生管理には全くご安心いただくように」とのことでした。



総会準備風景

真中はるゑ先生は

「次期国際女医学会の説明会もあれば、なお一層沢山の会員も出席されるだろうから」と一人でも多くの出席者をと心を配っておられる様でした。

総会後の記念講演として群馬大学医学部助教授で、同大学の中央放射線部副部長である平敷淳子先生の放射線診断学という新分野の講演を計画しておられるとの事、狩野先生は「平敷先生の講演を聞いた人はそのとりにこになってしまいう程、誠に勝れた歯切れのよい話術と才能の持主で、この講演はぜひ期待してほしい」と力説しておられました。

またレセプションはビュッフェスタイルの第一部とお座敷でのくつろぎスタイルの第二部とが設営され、一部でおしゃれを、二部ではゆつくり和食でくつろぎ、お喋り、かくし芸と、なかなか盛沢山の楽しい計画をたてておられます。

話しは段々と熱が入って愈々女性に楽しいショッピングと喰い気になりました。総会翌日予定の親睦の観光Aコースは岸先生がご担当下さるとの事にて「昼食に予定しているきのこ料理は、そのすべてがきのこで、東洋にも数少ないもので期待して貰いたい」と、またショッピングについては「銀座や有名百貨店にある同じ織物でも三分の一ぐらいの格安で買えるよ」と目を輝かせてご説明下さった。また「ネクタイ等も準備しているからね」ときめ細かいご配慮で群馬の総

会は楽しさ一杯という印象をうけ「大きいトランク持参が必要ですね」と冗談も出た。

また「お土産はおたのしみ、いわないからね」とニコリ。総会出席者全員に頂くお土産は果して何か? Bコースは角田先生がご担当下さるとの事で、

「福だるま生産額全国一といわれる少林山達磨寺での昼食、普茶料理は由緒と歴史ある料理で、年間を通じて五月は最もその料理の種類の豊富な時期で、庭の草木がその材料のほとんどだそう、お坊様が料理されてその料理の説明をして下さる珍しい会食ですよ」また

「冬はスケート、春はわかさぎで有名な榛名湖に近い榛名神社は、三十一代用明天皇元年の草創と伝えられる幽玄そのもので、その豪荘さは全く拝観の価値充分だと思ふ」との事でした。「ただし、おしゃれなハイヒールは駄目よ」と岸先生の一言。それは石畳の参拝道と石段がその原因らしい。

帰路再びショッピングの話となり、狩野先生は、「普通は私達でもこんなに安くは買えないけれど岸先生の肝入りなのですよ」と。

群馬はこうして来春五月の総会に一步一步と、きめ細かい配慮によって諸先生方一丸となつてご準備いただくご様子を眼の当りに拝見し、本当に感謝の他はありません。また佐藤先生は。



群馬支部総会

「群馬県では今までの親睦主体より一段飛躍し、研修会をその主たるものとして運営し、そのメンバーの中には開業医、学者、役人等あらゆる部門で活躍の女医さんが夫々の分野をもちよつて一丸となつていく方針でいる」と、誠に力強いお話しをうかがい、会の益々のご発展を祈りつつ帰路についた。

来春五月の総会には申し込みにより往復の乗車券も手配して下さるとの事にてぜひ多数の会員がご参加下さる様、お願い申し上げます。なお総会の詳細については別にご案内申し上げます。

(文責 野沢・八木)

忙中閑

「夕映えの子文」の紹介

結腸癌のため三十八歳で逝った甥の死を悼み自費出版した杉浦愛子先生の著書

神奈川 稲生、裏

昭和二十二年関西医大卒(医博)の杉浦愛子先生は現在新日本電気(株)東京工場診療所勤務と明治生命保険相互会社の嘱託医をしておられる二児の母親ですが、今年六月右記疾病にて若くして逝った甥さんの死を悼み早期発見に心からの願いをこめてA5判、約百ページの本を自費出版なさいました。甥さんの成長記録から発病、手術、解剖まで克明に述べ、また多彩な先生の書、短歌、歌曲、絵が出ております。

また外国人にもぜひ読んで欲しいとの見地から苦勞の上の英文も出ています。

大勢の女医さん方にお読みいただく最適の本と思いいここに紹介させていただきます。

ご希望者は左記へどうぞ
(定価)一、〇〇〇円)

〒二二七 横浜市緑区市ヶ尾町

一一五四―二一三〇九

杉浦 愛子

電話 (〇四五)九七一―一六三四九

25周年日本医家美術特別記念展

「花」

目黒 木内 微子



“Women Physicians of the world”の紹介

野沢 良美

これは世界の女医の先駆者達のユニークなドキュメントであります。

一九一二年より以前に生まれた九

一名の女医の自叙伝で、(日本からは三名、すなわち竹内茂代、哲翁た

まよ、宮地国策の三先生方)彼女達が医学を志した動機、研究追求のため

の種々の困難、また目標を達成するための多くの犠牲などが述べられております。(二七カ国もの国から、それぞれの国の状態、文化の程度

ちがいなどから各々が目標達成のために、あらゆる障害をのり越えての闘い)彼女達は、みんな、もう一度

選ぶとしたならば医学の生涯を選ぶといつて結んでいけるのは、誠に力強い限りだと思われれます。

このような世界の女医の歴史的伝記を知ることは意義あることであるとともに医学を学ぼうとしている人々にとって何よりの力づけ、励ましとなる事と信じます。

会員の諸先生方にも、ぜひ一読いただきたくご推薦申し上げる次第です。

本部には四〇〇部あるとのことですがお申し込みは女医会事務局にて一括して注文し、発送は各先生方宛直送となりますので、住所、氏名をローマ字で、はつきりとお書きの上送りください。 価格 六、〇〇〇円

なお、日本女医学会におきましても学術部、事業部、広報部、協力のもとに日本女医史第II号(続編)を発行致したいと思っております。

理事会議事録

日時 昭和五十四年七月二十八日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、久保田、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川那部、佐野、平瀬、藤田、森川、山本、今野、添田、欠席(敬称略)

小俣、佐藤、尾中、大原、川口、川島、齊藤、清水、鈴木、野口、野呂、蓮井、藤井、マッキンストリ、山口

庶務報告 久保田常任理事

6月23日 常任理事会、理事会を行う
7月5日 鈴木文子理事に病氣見舞を役員一同で送る
昭和五十三年学位取得者(六十三名) 入会勧誘状発送
会員名簿広告掲載依頼を三十四社にする

7月7日 各支部長へ住所変更等調査依頼をする
福岡、山口支部に集中豪雨災害見舞をする

7月11日 役員登記完了する
7月18日 厚生省より昭和五十三年度事業報告に関連しての質問事項に対し解答する

会計報告 守安常任理事
六月分別紙どおり 承認

議題

一、昭和五十五年定時総会について群馬支部よりの計画案にもとづき検討する
日時 昭和五十五年五月二十四日
場所 群馬県伊香保町「福一」
評議員会 一時〜二時

総会 二時二十分〜四時二十分
講演 四時三十分〜五時三十分
懇親会 六時〜九時
昭和五十五年五月二十五日
観光旅行

二、総会記念品残品整理について
来年の国際女医会議に持参する
三、国際会議参加について
参加登録業務を本部で一括して行う旅行社は日本交通公社と阪急交通社に決定
同時通訳料は国際ファンド会計と参加者の負担とする

四、前進座観劇について
日時 昭和五十四年十二月八日(土)
午後五時開演
場所 帝国劇場

五、その他
(1)各部から年次計画案提出依頼について
九月理事会に計画案の発表を願う
(2)会員名簿発行について
名簿代千円、発行部数四千部
(3)日本女医会誌について
原稿依頼についてお願い
(4)原稿締め切り期日は厳守していただきたい(発行月の前月十五日必着)

(5)原稿を依頼され、どうしても

都合の悪い場合は、返事を出
来るだけ早くいただきたい
の投稿していただいても紙面の
都合上当号必ず掲載できない
こともあるので、あらかじめ

ご了承いただきたい

(一)自由な投稿を歓迎いたします

(4)へき地診療への助成について

東京女子医科大学無医地区研究
会へ三十万円助成する

(5)品川支部長選出の件

山田未知子先生に継続を願う

(6)東京都婦人情報センターより

「日本女医学会誌」寄贈願について
今しばらく様子を見る

(7)全国婦人新聞社より「家庭の日」

祝日を新設にあたり賛否の解答
について

祝日の新設は反対する

(8)「医療行政要覧」購入について

購入しない

(9)講演研修会について

九月理事会に検討する

(10)日本国際医学生連盟より寄付金

の申請あり

五万円を助成する

報告事項

(1)吉岡弥生賞校債について

一千万円の校債を継続する

吉岡弥生賞審査委員選出は、後

日検討する

(2)福祉共済について

明治生命団体グループ保険を今

後研究し今回は否決となる

(3)大学婦人協会よりIFUW太平洋

地域セミナー開会式招待について

祝電を打つ

(4)国際人権規約批准促進連絡会よ

り講演会と街頭宣伝活動のための

経費負担について

渉外費より一万円支出する

(5)NGO 国内婦人委員会より年度

額五千円納入の件

渉外費より支出する

(6)国際児童年記念品頒布について

Tシャツの頒布に際し注文して

いただきたいとの願いあり

以上 久保田くら

松岡 宏子

ルーペンダンのおしらせ

ご承知のように「金」の異常な程の

値上りのため「金鎖」(価格二四、九

八〇円)のみ本年九月より他の商品

のごとき一割引きが出来なくなりま

したのでご了承下さい。なお他の商

品も来年より多少値上げせねばなら

ないとこの事ですのでご報告してお

きます。ルーペンダンのご注文は日本

女医学会事務局へ。



ご好評のルーペンダンに
〈特選品〉が誕生しました。

〈特選品〉(ロン)は
ヨーロッパを基本にした
優雅なデザインで構成しま
した。

二二ツト式ですから

それぞれの組合せで

二二ツつなパリエーション

が出来ます。

時・所・装いにマッチした

おしやねを愛してみたい。

定価 ロンド(大) 八,000

ロンド(小) 六,000

事業部

会員動静

支部長変更新支部長(敬称略)

大田支部長 木原シツ子

豊島支部長 上崎道子

茨城支部長 大貫京子

渋谷支部長 脇田昌子

入会会員(敬称略)

藤原りつ子(昭和五十二年卒神

戸大)道山琴美(昭和五十二年

卒神戸大)桑江ときは(学内)

別所順子(昭和五十三年卒関西

医大)

新卒入会会員 昭和五十四年卒

宮地千尋(神戸大) (敬称略)

退会会員(敬称略)

坪田芋子(大阪10)山原カズ(目

黒)

自然退会会員(敬称略)

西村和子(北海道) 田崎敏子(宮

城)早坂邦子(宮城) 柏原利子

(福島) 森山良子(福島) 大野

照子(栃木・宇都宮市) 久保高

子(千葉) 原岡子(江戸川) 森

本恵美子(大田) 有留道子(北

中島利子(品川) 菊地正子(新

宿) 千葉春美(新宿) 宮島節子

(新宿) 天谷琴(杉並) 橋本美

佐子(世田谷) 梅村晴子(中野)

三橋美和子(中野) 宮本操子(中

野) 小暮正子(練馬) 遠藤正枝

(文京) 山口とも(港) 星野光

会員物故者(敬称略)

子(目黒) 川真田美和子(学内)
黄富士子(都下) 杉山文子(都
下) 岩谷征子(神奈川) 安江厚
子(愛知) 大西英子(新潟) 宮
崎紀美子(大阪10) 山崎綾子
(兵庫) 岡田悦子(広島) 峠本
瑛子(広島) 柴崎芳枝(山口)

訃報に接し哀悼にたえず謹し
んでご冥福をお祈りいたします
浮島せん(墨田) 古賀孝枝(北
都竹ふさ(大阪5)

編集後記

今回はことに佐藤イクトヨ先生の膨
大にして誠に貴重な原稿及び写真をい
ただきまた巻頭言には副会長の前途洋
々とした明るく力強い抱負をうかがい
日本女医学会の重厚な歴史のあゆみ、
先駆者の尊い足跡を今改めてかみし
めた我々は、この歴史の一頁を預る
現代の女医として、その責務の如何
に大なるかを痛感せずにはおられま
せん。

当誌八十号編集の企画に当り何か
記念詩集をと考え、短い期間ではあ
りましたが、原稿及び作品のご寄稿
をお願いしましたところ、川野辺静
先生の貴重な体験談を始めとして、
先生方にはご多忙の中を快くお引受
けいただきご協力下さいました事を
厚くお礼申し上げます。

通刊二百号という記念すべき誌

にはまだまだ企画したい事は山程あ
りましたが何分切期日もあり、次
号にはより一層読者のご期待に沿う
べく努力したいと広報一同頑張っ
ております。

今回企画しました支部展望と題し
ましては、九州地方の各支部にお願
いしましたところ、福岡県より早速
ご投稿いただき、宮崎、佐賀、長崎
熊本、鹿児島各県支部からは夫々
ご返信いただきました事を厚くお礼
申し上げます。次の機会にはぜひご
寄稿いただきますようお願い申し上
げます。

次号一月発行の支部展望は四国地
方を予定しております。支部の状況
郷土の紹介、会員の話題等、支部長
先生始め諸先生のご投稿を心から
待ちしております。また忙中閑のコー
ナーは読者の自由投稿のコーナー
と考えております。会員の趣味、作
品、関与しておられる社会活動等、
あらゆる分野のこの頁にふさわしい
事でしたら何でもお寄せ下さい。ま
たご紹介でも結構でございます。
お待ちしております。

最後に玉稿を賜りました諸先生方
に深く感謝申し上げます。(八木記)

昭和五十四年十月二十日 印刷
昭和五十四年十月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 会
発行人 日 本 女 医 会
社団法人 東京都新宿区
市谷河田町19
TEL (341) 0968
東京文京区本駒込
一七七一十五
株式会社 北 斗 社